

ならしのプロボノ2025

マスママカレッジ

プロジェクト活動報告書

団体紹介「ママママカレッジ」

【ママママカレッジプロフィール】

- ・2007年5月に習志野市で活動開始
- ・習志野市市民協働インフォメーションルーム登録団体
- ・習志野市社会福祉協議会団体助成金交付団体
- ・ゆうちょ財団「金融教育講座」、お金のワークショップなど開催
- ・市内福祉事業所にて「出前さんすう広場」のボランティア活動を実施



市民活動団体 (出所)地域情報サイト「まいづれ」

ママママカレッジ

市民協働インフォメーションルーム登録団体です

- ①さんすう広場 (対象は会員以外のどなたでも、会員が企画・運営)
 - ・親子で学ぶ算数やお金のワークショップ
 - ・知的障がい者・発達障がい者の支援者(本人・当事者)向けの講座
- ②広報活動 (市内全域)
 - ・通信(活動紹介)の配布
 - ・活動や講演会を撮影したDVDの貸し出し
 - ・Instagramでの教材や情報の公開
- ③出前さんすう広場
 - ・楽しい算数学習のボランティア活動 (福祉事業所、学校等)

- ・知的障がいや発達障がいなど障がいのある子どもをもつ親で構成 (知的障がい、発達障がい、ダウン症、自閉症など)
- ・算数の学びを通して、親は障がいのある子どもへの理解を深め、子どもは自分でできたという達成感を積み重ねられる豊かな学びを提供できる活動
- ・定例活動として、毎月1回講師を招き、親の勉強会の後に、親子での勉強会を行っている



目標・体制は次のとおり定め、目標達成に向けて「協働」を展開

目標

- ①団体活動紹介にかかる動画の制作
- ②動画を広報活動に活用する方法の検討
⇒今後、新規会員の増加につなげていく

■ 団体メンバー

代表：阿部様、会員の皆様、専任講師：森先生

■ プロボノワーカーチーム

西（連絡担当）

永井（動画制作担当）

斉藤（チームコーディネーター）

■ 「ならしのプロボノ2025」事務局

認定NPO法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ 鍋嶋

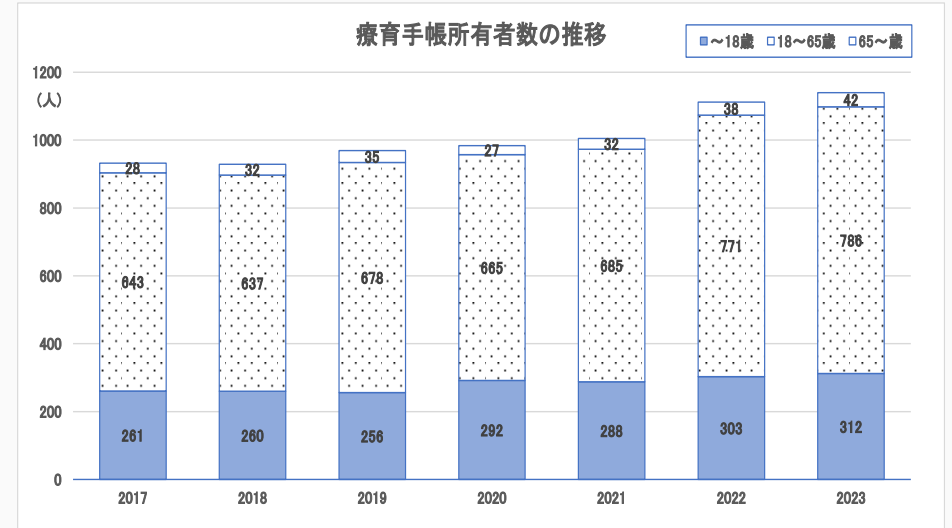
ママママカレッジの現状

「ママママカレッジ」の課題、外部環境、強み、現在の広報活動を確認

課題	会員数の減少
主な要因	会員の子の成長(成人)、保護者の就労による参加の困難化(放課後等支援サービス等の利用)、経済的負担(会費支払)
考察	外部環境が大きく変わりつつある中、団体の活動が潜在的な対象者に届いていない可能性がある(知名度・認知度の向上が必要)

【参考データ】

会員数	設立当初(2007年)20名⇒現在7名
放課後等デイサービス数	2012年～2020年で約5倍(2012年の児童福祉法の改正をきっかけ)
デジタル化の進展	(スマホ普及率)2010年4%、2015年5割、2019年8割、2021年9割、2024年97%



(出所)習志野市役所資料



受容と学び	思考の柔軟性	ポジティブな変化
親子の時間	多様な接点	気づきと成長

- 【現在の広報活動】**
- ・SNS (Instagram)
 - ・地域情報サイト「まいぷれ」
 - ・チラシ

☞ 団体全員にアンケートを実施し、取りまとめたうえ還元
アンケートを通じて、ママママカレッジの“強み”を再確認

☞ 新規会員の獲得に向けて動画を活用した広報活動の展開へ

デジタルツールを有効活用することで、プロジェクト活動を効率的に実施

	月日	MTG	主な内容
1	9/28	顔合わせ	プロボノオリエンテーション
2	10/8	第1回	キックオフミーティング、団体活動見学、ワーカーマーケティング (動画試作品の制作作業)
3	11/5	第2回	動画試作品の試写、インタビュー撮影 (動画(第1版)の制作、11/29提供)
4	12/10	第3回	動画(第1版)にもとづく意見交換、昼食会、ワーカーマーケティング (ナレーションシナリオ変更等を経て動画(第2版)へ改修、12/27提供) (団体メンバーにてナレーション録音、1/9実施) (音声ファイルを差し替え、動画(最終版)へ改修、1/11提供)
5	1/14	第4回	動画を活用した広報活動にかかる意見交換
6	2/4	第5回	プロジェクト振り返り

【無料動画編集アプリ】:「Canva(キャンバ)」
オンラインで利用できるグラフィックデザインツール



「ママママカレッジ」の想いが伝わる“コンセプトムービー”を制作



【動画内容】

- ・約5分30秒：団体の活動紹介、講師・代表のインタビュー等



☞ 団体・ワーカーとのミーティングの様子



制作動画を活用し、今後、新規会員の獲得に向けた活動を進めていく

【新規会員獲得に向けた戦略イメージ】

【コアターゲットの設定】

- ・知的障害がいや発達障がいなど障がいのある子供を持つ保護者
(知的障がい、発達障がい、ダウン症、自閉症など)
- ・子供の年齢層: 6~12歳
- ・保護者の住居: 習志野市、千葉市

【今後の動画活用方法】

- ・YouTubeチャンネル開設
- ・YouTube公開
- ・チラシ連携

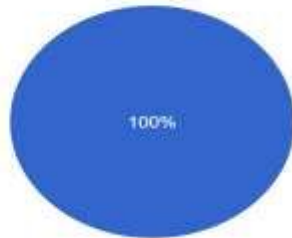


今後の展開として、イベント時に動画の上映やアンケートの声を展示する。また、引き続き、学校や行政等に対して広報活動を継続していく。将来的にはマスママカレッジ卒業生の親・子のための「生涯学習」の場を設けることを検討中

アンケートを実施し、結果は以下のとおり

1. 「ならしのプロボノチャレンジ2025」に参加して、どのように感じましたか？

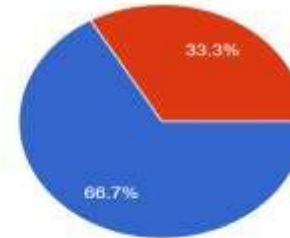
6件の回答



- ①参加してよかった
- ②どちらでもない
- ③参加したがよくなかった

3. プロジェクト期間（約4か月）は、どのように感じましたか？

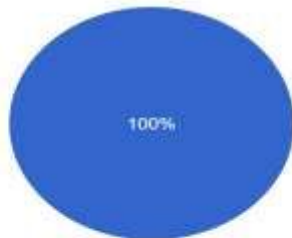
6件の回答



- ①ちょうどよかった
- ②もっと長いほうがよかった
- ③もっと短いほうがよかった

2. 「団体紹介動画」について、どのように感じていますか？

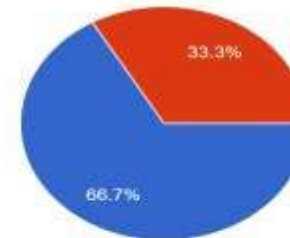
6件の回答



- ①満足
- ②活用するには検討の余地あり
- ③今後の活用は難しい

4. 今後、機会があれば、プロボノワーカーによる支援をまた受けてみたいと感じますか？

6件の回答



- ①また受けてみたい
- ②どちらとも言えない
- ③受けたいとは思わない

(コメント欄より抜粋)

・団体の目的を再認識できた、団体の活動を客観的に振り返ることができた、・今後の広報活動で目指すところが明確になった、一人一人が広報活動を担う気持ちを持つことができた、・動画制作を通じて、団体立ち上げ時の想いを再確認できた、・今後の団体活動への意欲が高まった など

振り返りとプロジェクト評価は以下のとおり

【プロジェクト活動総括】

動画制作では団体メンバーの音声を取り入れるなど「人間の温かみ」という本質的な価値を提供できた。一方、プロジェクト管理では「合意形成のタイミング」と「動画活用」に課題を残すことになった。この「産みの苦しみ」で得た教訓を活かし、プロセス全体のデザインを行っていく必要性を感じた

【プロジェクトからの学び】

- ・団体の活動見学や意見交換を通じて活動内容の理解が深まった
- ・団体のミッションやビジョン等に共感することで、支援活動に対するモチベーションアップにつながった

【動画制作における気づき】

- ・当初、動画の完成形のイメージが掴めずに、生成AI等を活用することで、試作品を制作した
- ・動画制作中、動画や字幕を増す毎に動作が重くなり、また、動画挿入で微調整が発生するなど、想定以上の時間を要した

【所感】

- ・本プロジェクトの成功要因は、団体・ワーカー間で目標達成に向けて「協働」を展開できたことである
- ・動画制作を通じて、団体・ワーカーの一体感が醸成され、完成することができた。また、視聴者に対して、団体の“想い”が届けられる内容に仕上がったと思う
- ・“地域で素晴らしい活動をしている団体”との出会いや活動支援が、プロボノ活動の醍醐味だと改めて実感した

項目	評価ポイント	評価コメント
目標達成	プロジェクトの目標は達成されたか	・当初設定した目標は達成
成果物	プロジェクトの成果物は期待どおりであったか	・制作動画については期待水準を確保
スケジュール	プロジェクトは予定どおりに進んだか	・合意形成のタイミングや意見交換の時期等に課題がみられたが、期間内に対応
ツール	プロジェクトのツールは十分であったか	・Canva、生成AI、googlechatやLINE、Eメール等を活用し、効率的に作業実施
コミュニケーション	プロジェクトのコミュニケーションはどうだったか	・ワーカーは経験者のみで構成されており、各自役割分担を理解のうえ対応。また、団体に対しては、代表者とコミュニケーションを円り、当初目標に向けた活動を展開
作業時間	プロジェクトは作業時間内で完了したか	・当初想定していた作業時間(1W/5H)内にて完了 (ワーカー1あたり)5H×4W×4M=80H